

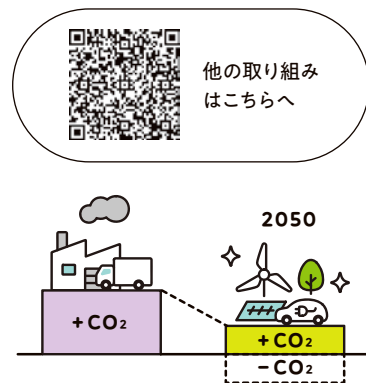


静岡大学では、地域社会との連携窓口となるカーボンニュートラル推進本部を2024年7月に設置し、8月にカーボンニュートラル宣言、アクションプランの策定を行い、「キャンパス」「研究・イノベーション」「教育・人材育成」「社会連携」の4領域で推進しています。

カーボンニュートラルとは
温室効果ガスの

排出量－吸収量＝ゼロ

温室効果ガス（二酸化炭素のみではなくメタン、一酸化二窒素、フロンガスを含む）の排出量から吸収量を差し引いた合計を差し引きゼロ（ニュートラル、中立）にすること。日本政府は、2050年までに目指すことを、2020年10月に宣言しました。



全学部生を対象に2025年4月スタート！

特別教育プログラム

地域を、そして世界をリードする人材を育成！

カーボンニュートラルは、企業だけでなく、そこで働く人や、一般の消費者など、みんなが意識して取り組まなければならないテーマ。文系、理系問わず、全ての学生が知識を持って、卒業後社会で、それぞれの立場で、どう取り組むべきなのか、どういう社会を目指すのかを考えることができるよう、このプログラムを設立しました。

特別教育プログラムは、自分の専攻（主専攻）以外に興味がある特定の分野を履修できる制度です。所定の単位を修得するとオープンバッジ（学習歴のデジタル証明）が付与されます。

必修4単位	+	選択8単位以上
① カーボンニュートラル入門（2単位） ② カーボンニュートラル科学（2単位）		関連する学際科目、専門科目から選択 ③ フィールドワークの選択も可能

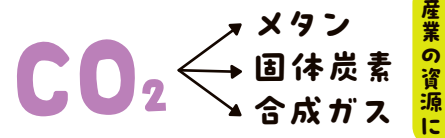
大学院でも実施中！カーボンニュートラル推進人材育成プログラム

修士課程の情報学・理学・工学・農学の各専攻の専門性と幅広い知識を合わせ持つ高度な専門人材を養成しています。

**研究を
社会実装へ！**

カーボンニュートラルに寄与する「グリーン科学」や「カーボンニュートラル科学」は、本学が強みを持つ研究分野です。これまでの研究をさらに発展させ、持続的な社会発展と経済成長を両立するグリーン社会モデルの構築へつなげます！多くの研究があり、その一部をご紹介します。

温室効果ガスを炭素資源に変える
福原 長寿 教授（工学部）



室温で二酸化炭素をメタン資源に変えるメタン化技術（オートメタネーション®）を世界で初めて開発しました。さらに、メタンと二酸化炭素から産業原料ガスとなる合成ガスを造りつつ、機能性材料の固体炭素を約60%の効率で製造することに成功しました。COP会議のCO2削減目標に貢献する革新的な技術です。



1

カーボンニュートラル入門

基本を知る

これから社会に出ていくすべての学生に必要な学び。自然科学だけでなく、人文科学、社会科学など、多彩な専門分野の教員がそれぞれの観点から話すほか、自治体・金融機関など外部講師による授業もあります。普段身近に感じていないかもしれない文系の学生も、自分の専門も関係していることを知り、自分事として考えるきっかけとしてもらいたいと思っています。

グローバル共創科学部／板倉 美奈子 教授



プログラム全体の設計を担当。学部横断で専門が異なる教員による議論を重ねて準備をしてきました。

2

カーボンニュートラル科学

最先端の研究に触れる

再生可能エネルギーの利用、熱循環の基礎、バイオ燃料の利用など、科学的見地から理解を深め、社会制度の知識を獲得することで、脱炭素・循環型社会の実現に向けて必要な学びを深めることができます。専門分野の異なる5名の最先端の研究者の講義をじっくり受講することができます。

グローバル共創科学部
水谷 洋一 教授



令和6年度はグローバル共創科学部の授業でしたが、令和7年度からは本プログラムで全学部生が受講できるようになりました。

3

カーボンニュートラル・フィールドワーク

現場を知る、専門分野を深める

さまざまな分野の教員らと静岡県内の自治体、企業、大学などを訪れ、現場の実践的な取り組みを学びます。複数のプログラムから前期・後期2つを選べ、学部・キャンパスの枠を超えて、多様な専門の学生らと交流しながら自身の専門分野をさらに深めます。

情報学部／グリーン科学技術研究所
峰野 博史 教授



環境問題の解決だけでなく、利益を地域に還元し、地域創生に力を入れることで環境活動自体も持続可能になると感じた。



浜松・浜名湖太陽光発電所の見学
（環境省「令和4年度教育機関と連携した地域再生エネルギー導入促進及び地域中核人材育成研修」事業）

他学部の学生と話し合うことで自分にはない着眼点を知ることができ、自分の興味が広がっていく経験ができた。

静岡市西ヶ谷清掃工場の見学
（2024年度サステナビリティセンター）

膜プラスチックに森林を活用

青木 憲治 准教授（グローバル共創科学部）



脱化石資源に向け、材料分野ではセルロースの活用が求められています。自動車、家電製品に社会実装できる「セルロース／樹脂複合材料」の開発により、セルロースを主成分とする木が新たな資源となり、森に新産業を創出できます。産業化により、植林、管理、雇用の良循環の確立を目指します。



温泉メタンで分散型エネルギー生産

木村 浩之 教授（理学部／グリーン科学技術研究所）



静岡県中西部には掘削井による温泉が数多くあり、温泉水と天然ガス（温泉メタン）が湧出します。静岡県内の自治体や企業と連携して、この温泉メタンを活用して都市ガス・熱・電気を供給する分散型エネルギー生産システムを社会実装しました。災害時に防災ステーションとしても利用します。

